

4月25日正午必着

明石春浦先生書



蒼苔翠竹汝所好。

白石清泉吾故郷。

幽居。

明石幸子書



雲開萬壑春。

雲がはれて谷間に春景色があらわれる。

百里望咸陽
知是帝京域
綠の樹は雲間の光にゆらめき、春の城には春のけしきがみえてきた。

ひゃくりかんようをのぞみ
百里望咸陽
しるこれはいけいのいきなるを
知是帝京域
しゅんじょうふうしよくおこる
縁樹搖雲光
春城起風色
(只邁遠)

百里かなたの咸陽を眺めみれば、まさにこれぞ都の地であると知れる。
緑の樹は雲間の光にゆらめき、春の城には春のけしきがみえてきた。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

萬物光輝 (古樂府)

萬物光輝

陽春德澤を布き、萬物光輝を生ずと。

林邊鳥語月微下 (任詢)

林邊鳥語月微下
竹裏花飛春又深し

林のあたりに鳥ないて月はやや斜めに、
竹林に花散って春は一段と深い。

春山 (僧貫休)

春山
僧貫休

重疊太古色 濛濛花雨時
好山行恐盡 流水語相隨
黑壤生紅朮 黃猿領白兒
因思石橋日 曾與道人期

重疊たり太古の色 濛濛たり花雨の時
好山 行くゆく尽きんことを恐れ 流水 語って相隨う
黒壤 紅朮を生じ 黄猿 白兒を領す
よつ おも せききょう ひ かつ どうじん き
因て思ふ 石橋の日 曾て道人と期せしを

隅田川 中洲をこゆる 潮先に霞流れて 春雨の降る (井上文雄)

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

風 處
帆 客
幾

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書



隸書

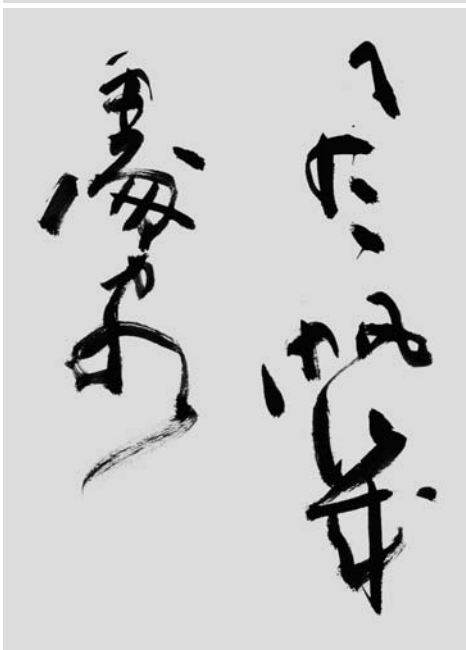


明石春浦先生書

草書



行草書



露の白くおるころ、草はなおも青々と茂る 淮水を行く舟は岸によりそって碇泊する
 風に帆をかけて、彼方、此方へ向かう旅人 空には天の川、地上には淮水、それぞれにきらめく星
 樹木は静まって、鳥は草の中に眠り 岸の砂は冷たく、鹿が汀を駆け過ぎる
 明日の朝、私と連れだって まっすぐに大海に浮ぼうという人はいないものだろうか

秋夜宿淮口

景池

露白草猶青

淮舟倚岸停

風帆幾處客

天地兩河星

樹靜禽眠草

沙寒鹿過汀

明朝誰結伴

直去泛滄溟

秋夜 淮口に宿す 景池

露白くして 草は猶お青し

淮舟 岸に寄りて停まる

風帆 幾処の客

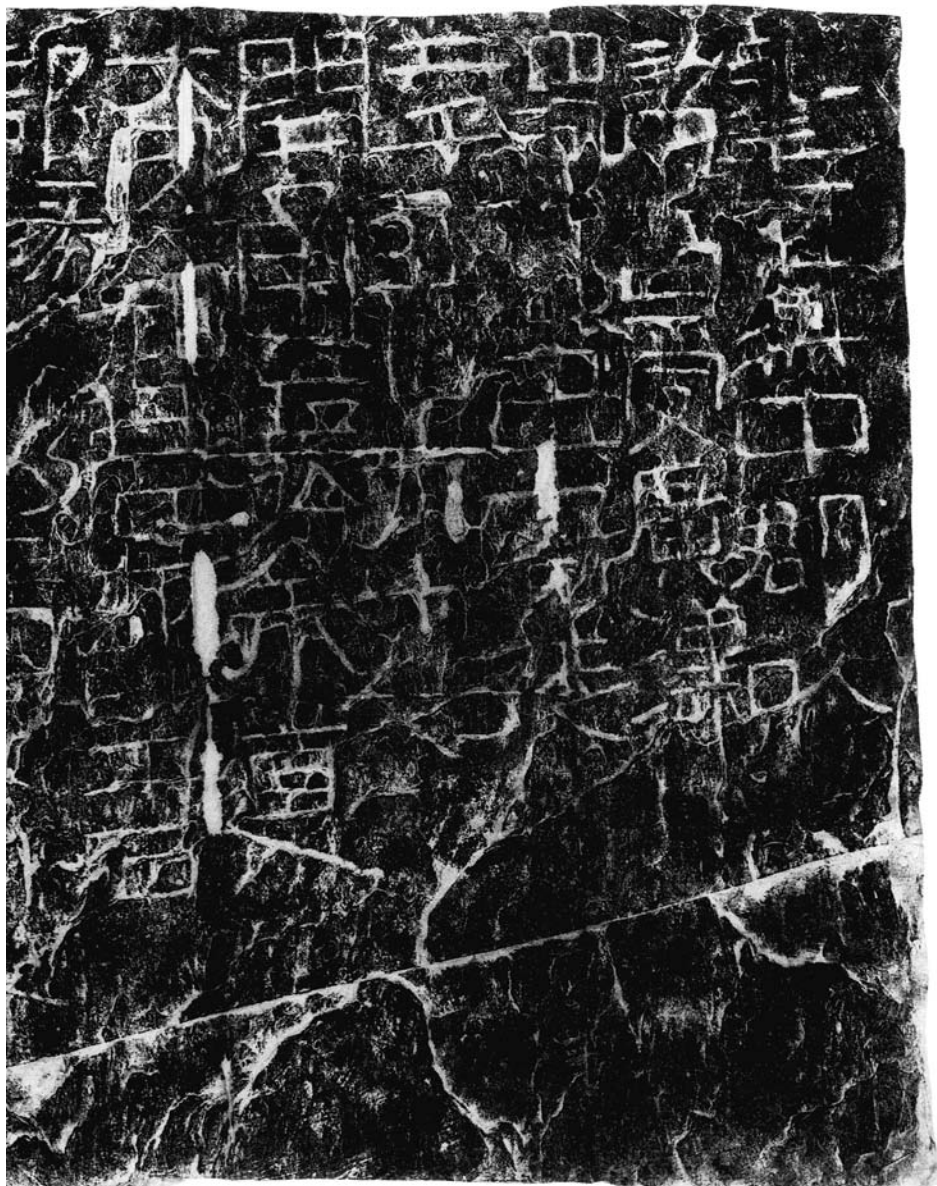
天地 両河の星

樹静かにして 禽は草に眠り

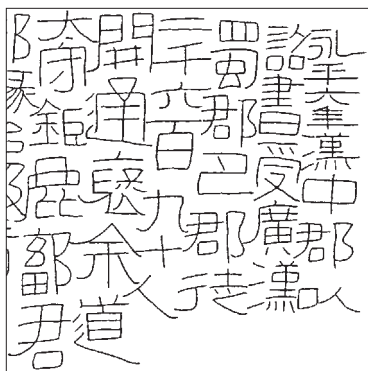
砂寒うして 鹿は汀を過ぐ

明朝 誰か伴を結び

直ちに去って 滄溟に泛ばん



永平六年 漢中郡以詔書受廣漢・蜀郡・巴郡徒二千六百九十人開通褒斜道。太守・鉅鹿鄒君、
 永平六年 漢中郡に詔書をもって広漢の蜀郡と巴郡の徒と二千六百九十人を授け褒斜道を開通させた。太守鉅鹿の鄒君



※天来書院刊「中国古代の書③」による文字
 の点画の解説を骨書きのかたちで左のよう
 に掲載させていただきました。



二千六百九十人を（授）け褒斜道を開通させた。太守鉅鹿の鄣君



（二千六百九）十人を（授）け褒（斜道）を開通させた。

後漢 開通褒斜道刻石

標高三千メートル前後という険峻を極める秦嶺（しんれい）を間に挟む陝西省と四川省を結ぶルートは古く秦代から開発されていたとい、漢代になると幾度か改修工事が行われたといわれる。その一つに褒斜道がある。この刻石は永平六年（六十三）から九年（六十六）にかけて行われた、褒斜道修復に功績のあった鄣（ちく）という名の太守をたたえた記念碑であり、摩崖（がが）と呼ばれる自然の岩肌に直接文字が刻まれた石碑である。高さは約九〇センチ、一三〇センチ、幅約二八〇センチの大きさで、碑文は一六行、一行五字、十一字の隸書体である。字径が二〇センチ前後と大きく、雄大さと古意を感じさせる。

漢代は横画に波法をほどこす装飾性のある八分隸の完成期にあたるが、この刻石はその前期を代表する書といわれ、曹全碑や禮器碑のような整齊さとは異なり、波法をほとんど用いず、その大らかさや風化ともあいまっての古拙の中の暢びやかさ・飄逸さは、楊守敬をして「天然の古秀」と言わしめ、古くから多くの人々を魅了する逸品といわれる。

（春濤）

4月25日正午必着

教育部毛筆

制服

せい
制

ふく
服

中学一年

雨宮春聲先生書

詩集

し
詩

しゅう
集

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



か
花

ふん
粉

小学五年

藤井良泰先生書



しょ
書

もつ
物

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

白玉

しら
白

たま
玉

小学三年

細谷春誠先生書

毎日

まい
毎

にち
日

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

さい 小学一年・幼年



立つ

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

藤田幸春先生書

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

春の雨に草や木の
芽がふくらみます

小学五年

むかしから家に伝わ
る古い柱時計がある

小学六年

吹く風はやわらかく
里山を春色に染める

中学

山々の風光はわが心を
清らかにしてくれ

一般(級位)

里人やわかなつむらし朝日さすみかさの野べは春めきにけり
みかさの野べは春めきにけり

里人さとひとやわかなわかなつむらし朝日あさひさすみかさの野のべは春めはるきにけり(前大納言さきのだいご為家)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

長いねむりから目
ざめた動物たち

小学四年

小鳥のこえが
森からきこえる

小学三年

風にまいちる
さくらの花びら

小学二年

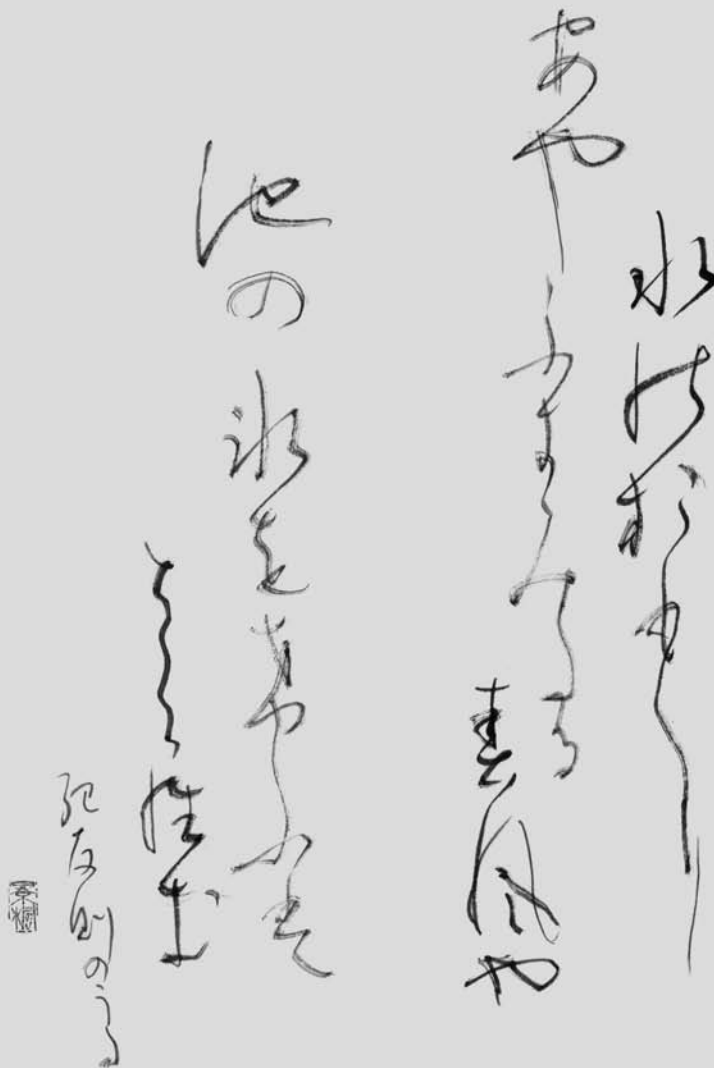
おわんにのっ
ーすんなぼうし
た

小学一年

なのながさ
れいのなさい
たき

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



水のおもにあやふきみだる 春風や 池の水を けふはとくらむ (紀 友則)
能於毛耳安支多希盤羅
池の水面に波の模様を描いて吹く春風は、池に張った水を今日こそ解かしているのであらうか。